

環境科学会 2025 年会におけるシンポジウム企画について

年会委員会

1. シンポジウムの実施要領（概要）

1) 下記 8 件の企画シンポジウムを開催いたします。

2) オーガナイザーは、年会委員会より送付された所定の様式により、企画したシンポジウムの詳細プログラム（演題・登壇者・所属）を作成し、**2025 年 5 月 30 日（金）17 時（時間厳守）**までに年会委員会に提出してください。また登壇者全員分の発表要旨原稿（原則して 1 演題にあたり A4 版 2 頁、または 1 シンポジウムで A4 版 2 頁、書式は研究発表と同じ）をとりまとめて、原稿提出締切日（**2025 年 7 月 9 日（水）17 時（時間厳守）**）までに年会委員会へ PDF ファイル（camera-ready）をメール添付でお送りください。事務局では修正ができませんので、オーガナイザーは必ず印刷して、写真や図表が不鮮明でないこと、様式に誤りがないことを確認してください。

3) シンポジウムの構成や当日の進行・会場運営はオーガナイザーに一任いたします。

* 問合せ先 *

公益社団法人 環境科学会 年会委員会シンポジウム担当

(E-mail : sympo(at)ses.or.jp ※(at)を@に変換してください。)

2. シンポジウムの一覧

* 各シンポジウムの最新情報については、**学会ホームページ** (<https://www.ses.or.jp/conference/2025conf/>) にて、適宜更新しご案内いたします。

タイトル	シンポ-1：「水インフラに見る人々の暮らしと価値観」
プロジェクト名	
公募の有無	無
オーガナイザー	村上道夫（大阪大学）
および連絡先	中村高志（山梨大学）
趣旨・内容	健全な水環境の保全に向けたインフラ施設の適切な維持管理は、喫緊の課題である。近年、水インフラの維持管理に向けた地域社会の住民参画が重要視されつつあり、水インフラ施設に対する人々の価値観や考えを明らかにする必要がある。そこで、衛生工学、環境学、リスク学、水文学、土木計画学、文化人類学など様々な分野の観点から、未来の水インフラ施設とコミュニティの関わりのありかたを議論する。村上道夫（大阪大学）がオーガナイザーと発表者を、中村高志（山梨大学）がオーガナイザーを務める他、西田継（山梨大学）、中村晋一郎（名古屋大学）、飛野智宏（東京大学、難波美芸（鹿児島大学）、田中尚人（熊本大学）が登壇する。
開催日	9/4（木）午前

タイトル	シンポ-2：「脱炭素実現に向けた CCS 普及策の学際的研究」
プロジェクト名	住友財団環境研究助成「CCS 普及へのカーボンプライシングとサステナブルファイナンスの学際的・国際共同研究」
公募の有無	有
オーガナイザー	有村俊秀（早稲田大学）
および連絡先	arimura.lab(at)list.waseda.jp ※(at)を@に変換してください。 鷺津明由（早稲田大学） washizu(at)waseda.jp ※(at)を@に変換してください。
趣旨・内容	2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、二酸化炭素回収・貯留（CCS）の役割が注目されている。しかし、CCS 自体は経済的価値を生み出さず、かつ費用が膨大なため、様々な政策がなければ導入されない。日本でも CCS 事業法が制定され、その方向性は示されているが、実際にカーボンニュートラル達成に向けて十分な量の CCS 導入が実現するかは明らかではない。そこで、本シンポジウムでは、CCS の技術的課題、経済的、社会的課題に対して、工学、経済学、ファイナンス等を中心に学際的にアプローチする。具体的には、それぞれの分野から研究報告を行い、今後の政策の方向性を議論する。
開催日	9/4（木）午前

タイトル	シンポ-3：「社会的質」の高いサステナビリティを実現するために～安全保障、包摂、結束、エンパワーメントの観点から」
プロジェクト名	
公募の有無	有
オーガナイザー および連絡先	白井信雄（武蔵野大学） n-shirai(at)musashino-u.ac.jp ※(at)を@に変換してください。 水谷香織（名古屋学院大学） kao(at)ngu.ac.jp ※(at)を@に変換してください。
趣旨・内容	ゼロカーボンに向けた気候市民会議や子どもの権利の観点からの気候変動政策への子どもの参加等の動きが活発化している。こうした動きは、持続可能な社会という規範に「社会的質」という規範を付与するものとして注目される。欧州の研究では安全保障、包摂、結束、エンパワーメントの観点から社会的質の具体化を行っている。本研究では、気候変動等の環境対策の目標に社会的質の向上という観点を付与し、その目標実現に向けた理論と実践を共有し、広く意見交換を行う。
開催日	9/4（木）午前

タイトル	シンポ-4：「どうすれば環境ボランティアを増やせるのか？」
プロジェクト名	
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	森保文（国立環境研究所） 前田恭伸（静岡大学）
趣旨・内容	環境問題の解決におけるボランティアの重要性は、今や議論の余地がない。しかし、多くの非営利団体がボランティア獲得に努めているにもかかわらず、ボランティア不足は依然として課題となっている。本シンポジウムではボランティア活動参加の機構に基づく募集のあり方、東広島市で20年以上の活動実績のある里山保全活動における参加者の動員のこれまでと抱えている課題、環境ボランティア活動のネットワーク化の効果、ボランティアと団体をマッチングする情報システムの可能性、および中間支援組織から見たボランティアと団体の現状について、広島県の事例を踏まえて議論し、今後のボランティア活動の研究の方向を探る。
開催日	9/4（木）午後

タイトル	シンポ-5：「営農型太陽光発電による食糧生産の持続可能性の確保」
プロジェクト名	JST/RISTEX Solve for SDGs「ソーラーシェアリングを活用した自立型脱炭素スマート農地の確立と展開」
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	倉阪秀史（千葉大学大学院） 馬上丈司（千葉エコ・エネルギー株式会社）
趣旨・内容	JST/RISTEX Solve for SDGs「ソーラーシェアリングを活用した自立型脱炭素スマート農地の確立と展開」の研究成果を報告し、議論する。 報告予定：倉阪秀史（千葉大学）「脱炭素スマート農地研究のねらいと到達点（仮）」、馬上丈司（千葉エコ・エネルギー）「ソーラーシェアリングをとりまく政策の現状（仮）」、深野祐也・丸山紀子（千葉大学）「ソーラーシェアリングのパネル内外での作物の生育状況の比較（仮）」、李想・劉華偉（千葉大学）「市町村別の食糧生産にかかるエネルギー消費量の推計とソーラーシェアリングによる自給可能性（仮）」、立花浩司（千葉エコ・エネルギー）「ソーラーシェアリングに関する科学技術社会論からのアプローチ（仮）」。また、研究メンバー外の研究者にもコメントを依頼する。
開催日	9/4（木）午後

タイトル	シンポ-6：「再生プラスチックに関する循環経済システムの構築に向けた課題とその研究動向」
プロジェクト名	内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム 課題「サーキュラーエコノミーシステムの構築」
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	小島直也（国立産業技術総合研究所） 田畑智博（神戸大学大学院）
趣旨・内容	従来型の線型経済から持続可能な形で資源を利用する循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行を通じて、低炭素化、資源の有効活用・安定供給、廃棄物の適正処理、関連分野における投資・イノベーションの促進など様々な成果が期待される。一方、その実現には GHG 削減効果や自然影響の可視化、情報保持・公開のための基盤構築、安全性の確保、消費者行動変容などの課題を乗り越える必要がある。 本シンポジウムでは、再生プラスチックに着目し、循環経済システムの構築にかかる多様な課題とその課題解決のための研究事例を紹介する。総合討論では、各研究事例にとどまらず、目指すべき循環経済像や必要な科学的アプローチについて議論する。

開催日	9/5（金）午前
-----	----------

タイトル	シンポ-7：「持続可能な食システムに向けて」
プロジェクト名	JST SICORP e-Asia 共同研究プログラム「脱炭素型食システムのための AI による支援ツール開発」
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	天沢逸里（早稲田大学） 栗栖聖（東京大学）
趣旨・内容	食システムからの温室効果ガス（GHG）排出量は全球からの人為的排出量の 1/3 を占めている。これを削減するには、生産、消費、廃棄の各段階を低炭素化していく必要がある。本プロジェクトでは、食システムにおける各段階を対象とした脱炭素戦略を示すことを研究目標としている。当該研究費ではタイ、インドネシアとの3か国による共同研究を通じて、食システムの上流から下流を通して AI を利用した先進的な脱炭素型の取り組みを検討している。本シンポジウムでは特に日本側での取り組みを中心に紹介すると共に、関連する研究発表を行い、食システムに伴う環境負荷削減に向けての取り組みや課題に関して議論する。
開催日	9/5（金）午前

タイトル	シンポ-8：「スクリーニング分析を用いた環境および水質モニタリングの新展開」
プロジェクト名	
公募の有無	有
オーガナイザー および連絡先	小林憲弘（国立医薬品食品衛生研究所） norihiro.kobayashi(at)nihs.go.jp ※(at)を@に変換してください。 坂田脩（埼玉県衛生研究所） sakata.osamu(at)pref.saitama.lg.jp ※(at)を@に変換してください。
趣旨・内容	環境や水道水で監視が必要な化学物質は数多く存在する一方、公定法による検査は対象物質が限られ、検査に多大な労力を要することから、多物質を迅速に測定し評価する体制の構築が求められている。。また、検査に用いるキャリアガスの供給不足や価格高騰により、代替キャリアガスを用いた分析技術も必要とされている。本シンポジウムでは検査対象物質の情報を予めデータベースに登録することで、検査時に標準品を用いずに網羅的に定性・定量が可能な「スクリーニング分析」の環境や水道水への適用に関して、代替キャリアガスを

	用いた手法を含めた研究開発の進捗状況について報告するとともに、 今度の課題について議論する。
開催日	9/5（金）午後